

**自己評価報告書(最終報告)**

報告者

芸術系コース(美術)  
／内藤 隆

## ■平成24年度の目標に対する自己点検・評価

## I. 学長の定める重点目標

## I-1. 科研費申請に向けた計画等

国立大学法人運営費交付金は年々削減され、教員の研究費配分も厳しくなっており、教員各自が研究のための外部資金を獲得しなければならない状況である。そこで、科研費申請に向けて、あなたが考えているテーマと計画等について示してほしい。

**1. 目標・計画**

科学研究費申請については現状では個人での具体的なテーマ・計画は無いが、従来から携わってきた美術造形教育・ボランティア系活動などを継続しつつ検討して行きたい。  
また、従来から幾つかのプロジェクト等に協力して来たが、今後も支援できる計画があれば出来る限りの範囲で協力して行きたい。

**2. 点検・評価**

本年は「教員養成モデルカリキュラムの発展的研究」の教科内容学研究協議会に参加し、特に後半はこの報告関連やコース内での調整に努力した。この点では一定の貢献ができていると考える。  
造形教育・ボランティアを通じた活動等の研究活動を通じた検討・模索は継続中であり、今後も検討を続けていきたいと考えている。

## I-2. 大学院学生定員の充足に向けた取り組み

専攻・コースのこれまでの大学院学生定員の充足状況を踏まえた上で、あなたは定員充足のためにどのような取り組みを行うか、具体的に示してほしい。

**1. 目標・計画**

従来からコース紹介のWebページ・パンフレット等の広報制作を担当しており、これらについて継続的に取り組んで行きたい。またコースでの取り組みとして大学院案内の送付も行っており、これも継続して協力して行きたい。また、他大学の教員との会合等の機会がある場合は、情報交換や広報に努めたいと考えている。

**2. 点検・評価**

中間報告の通りであるが、コース紹介のWebページ・パンフレット等の広報制作・改訂を担当した。本年はコース毎の紹介ビデオの構成について取りまとめを担当、制作に協力した。また大学院志望者向け美術コース案内パンフも改訂した。本年前半には広島市立大学教員との会合の機会があり、情報交換を行った。

## Ⅱ. 分野別

### Ⅱ-1. 教育・学生生活支援

#### 1. 目標・計画

- ① 部活・サークル等の顧問というかたちを通して、今後も学生支援にあたる。
- ② コースの教員や学生課、心身健康研究教育センターと協力し、適宜学生生活上の相談に対応する。

#### 2. 点検・評価

- ① 授業や専門内容を通じた手当でのみならず、手話サークルの顧問、N \* CAPのコーディネーターというかたちで、学生支援にあたった。
- ② コースの他教員と協力し、適宜学生生活上の相談に対応している。本年度は幸い自分が直接、学生課・心身健康研究教育センターと連携して相談する様なケースは発生しなかった。例年も行っているが、教員採用対策の実技指導も行った。

### Ⅱ-2. 研究

#### 1. 目標・計画

- ①、各種機材等の把握・精通に務め、表現・制作への応用を目指す。
- ②、作品については、機会をみて発表を心掛ける。

#### 2. 点検・評価

- ①、退職教員からの引き継ぎ授業の運営のみならず、教科内容学研究的授業導入調整なども入り、例年と比較し非常に多忙となったが、研究制作及び注文による制作などを通し機材類の精通に努めた。
- ②、例年通り、音楽会や教育イベント関連の印刷物を中心に依頼を受け制作、展示形式ではないが一般に公開されるものであり、各発注者からは好評を得ている。

## Ⅱ-3. 大学運営

### 1. 目標・計画

教員として、また各種委員会委員としてコース及び大学への貢献に務める。

### 2. 点検・評価

教員として、また各種委員会委員として部・コース及び大学への貢献に務めた。  
兵庫教育大学連合大学院学校教育学研究科の教員資格審査を受け(結果、Dマル合)、兼職となった。  
例年通り遍路GPから実施継続している「阿波学」「地域社会研究」の授業運営にも参画、歩き遍路への実施と採点等に参加した。  
本年からは「教員養成モデルカリキュラムの発展的研究」の教科内容学研究協議会にも参加し、各種報告を取りまとめて作成し、役割を果たした。

## Ⅱ-4. 附属学校・社会との連携, 国際交流等

### 1. 目標・計画

大学院の授業、教育実践フィールドなどを通して、附属及び地域学校教員と連携を図る。

### 2. 点検・評価

大学院の授業、教育実践フィールドなどを通して、附属及び地域学校教員と連携を図った。  
他の項目とも重複するが、「教員養成モデルカリキュラムの発展的研究」の教科内容学研究協議会で役割を果たした。  
また、地域児童の美術教育活動であるN\*CAPのコーディネーターなども務め、鳴門市のキャラクター制作にも協力し、公開講座デッサン教室も講師を務めるなど貢献した。

## Ⅲ. 本学への総合的貢献(特記事項)

兵庫教育大学連合大学院学校教育学研究科の教員資格審査を受け(結果、Dマル合)、兼職となった。  
(中間報告では「大学運営」欄に記したが、念のためここへも転記した)